No.

平成14年度

特別案件等調査報告書

―地域住民参加型開発手法コース―

平成14年7月

国際協力事業団
八王子国際センター

八王セ
JR
02 - 01

序　　文

本報告書は、国際協力事業団が本年１０月に実施する新設の地域特設コース「地域住民参加型開発手法」を立ち上げるために、対象国の現状調査、研修ニーズの把握を目的として、平成１４年６月２９日から７月１２日まで、ブルガリア、ルーマニアに派遣された調査団の調査結果をまとめたものです。調査団は、関連機関の訪問、現場の視察を行い、関係者との議論の中で、参加する研修員にとって、有益なコース内容は何かを検討してきました。

本報告書が、当該研修分野におけるブルガリア、ルーマニアの現状、問題点、研修ニーズなどについて、関係各位の一層のご理解をいただくための一助となり、今後の研修員受入事業の改善に資することができれば幸いです。

なお、本調査団の派遣に際しご協力をいただいた外務省、財団法人キープ協会、並びに現地においてご指導とご協力をいただいた在外公館および関係機関の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成１４年７月

国 際 協 力 事 業 団
八王子国際センター
所 長　渡辺　正夫

Bulgarian Association
for Alternative Tourism
ヒアリング中
（ブルガリア）

Tourism Policy
Directorate,
Ministry of Economy
との協議中（ブルガリア）

Division for European
Integration and
International Relations,
Ministry of Tourism
との協議後
（ルーマニア）

目　　次

I　調査概要

１．目的 1
２．団員構成 1
３．派遣国及び期間 1
４．調査日程 2
５．面談者 4

II　調査対象コースの概要

１．コースの目的 7
２．コース設立の経緯 7
３．コースの到達目標 7
４．研修員受入実績 7

III　ブルガリア・ルーマニアの一般情報

１．ブルガリア 8
２．ルーマニア 9

IV　調査報告

１．はじめに １０
２．報告（ブルガリア） １１
３．報告（ルーマニア） １２
４．研修に対する提言 １４
５．団長総括 １５

V　打ち合わせ要旨

１．ブルガリア １７
２．ルーマニア ２６

VI　現地報告書

１．ブルガリア ３５
２．ルーマニア ３６

Ⅰ　調査概要

１．調査目的

「（地域特設）中・東欧地域　地域住民参加型開発」コースは、八王子国際センターが（財）キープ協会の協力を得て、平成１４年１０月より新規に開始するコースである。（財）キープ協会は、山梨県の清里において、戦前より地域振興、人材育成に尽くしてきた経験を持ち、特に近年は、観光業、環境教育事業の展開で、清里の集客力の中心的存在となっている。本コースでは、清里の成功、失敗の事例をもとに、当該地域が観光業を通じた地域振興プランを策定する能力を付与することを目的としている。

本コースの新規実施にあたり、本件調査団（平成１４年度特別案件等調査「中・東欧地域　地域住民参加型開発手法－高原地域・清里の環境調和型観光開発を事例にして－」）を派遣し、当該地域のニーズにより合致した地域特設研修カリキュラム作成のための情報を収集するとともに対象候補者選定等の状況を把握する。

２．団員構成

（１）団長・総括

渡辺　正夫　国際協力事業団　八王子国際センター　所長

（２）技術指導

桶本　隆男　財団法人キープ協会　国際部　常務理事

（３）研修計画

沢田　博美　国際協力事業団　八王子国際センター　業務課

３．派遣国及び期間

（１）派遣国

今年度研修員を受け入れるブルガリア、ルーマニアに派遣すること

とした。

（２）期間

派遣期間は、平成１４年６月２９日から平成１４年７月１２日までとした。

４．調査日程

6月29日（土）　東京 →フランクフルト（NH209）

6月30日（日）　フランクフルト→ソフィア（LH3418）
JICA 佐久間専門家（観光開発）と打ち合わせ

7月1日（月）　JICA/JOCV駐在員事務所にて打ち合わせ
日本大使館表敬訪問及び打ち合わせ
EU Programmes and Japan s Technical Assistance Div., Ministry of Economyとの協議
National Tourism Policy Directorate, Ministry of Economyとの協議
Bulgarian Association of Regional Development Agencies and Business Centresヒアリング
Bulgarian Association for Alternative Tourismヒアリング

7月2日（火）　Municipality of Kazanlukとの協議
Kazanluk 地域の観光開発候補地視察

7月3日（水）　The Regional Tourist Association Strara Planinaヒアリング

The touristic bureau in Tryavna on Angel Kanchev Street, The Regional Tourist Association Strara Planina ヒアリング

7月4日（木）　Tourism Policy Directorate, Ministry of Economyとの協議

EU Programmes and Japan s Technical Assistance Div., Ministry of Economyとの協議

日本大使館・JICA/JOCV駐在員事務所報告

7月5日（金）　ソフィア→ブカレスト（RO803）

日本大使館表敬訪問

Asia- Pacific Division, Ministry of Foreign Affairsとの協議

Division for European Integration and International Relations, Ministry of Tourismとの協議

JICA/JOCV駐在員事務所にて打ち合わせ

7月6日（土）　Sinaia、Azuga地域の観光開発候補地視察

7月7日（日）　Busteni、Peak Omo、Brasov地域の観光開発候補地視察

7月8日（月）　International Affairs Devision, Municipality of Brasovとの協議

Bran 地域の観光開発候補地視察

7月9日（火）　Division for European Integration and International Relations, Ministry of Tourismとの協議

7月10日（水）　日本大使館・JICA/JOCV駐在員事務所報告

7月11日（木）　ブカレスト→フランクフルト（LH3479）

7月12日（金）　フランクフルト→東京（NH210）

５．面談者

（１）ブルガリア

1. EU Programmes and Japan s Technical Assistance Div., Ministry of Economy

Mr. Radoslav STANOLOV, Senior Expert

Mr. Ivan GADELEV, Senior Expert

2. National Tourism Policy Directorate, Ministry of Economy

Mr. Ivo MARINOV, Director

Mr. SAKUMA, JICA Expert

3. Bulgarian Association of Regional Development Agencies and Business Centres

Ms. Petya ATSINOVA, President of the Board of Directors

Mr. Kiril DRAMOV, Training Manager

4. Smorian Regional Development Agency

Mr. Ivo TZAREV, Director

5. Bulgarian Association for Alternative Tourism

Mr. Lubomir POPIORDANOV, Chairman

6. Zig Zag Holidays Ltd.

Ms Lili GENOVA, Office Manager

7. Municipality of Kazanluk

Mr. Stefan Dervishev, Mayor of Kazanluk city

Mr. Ivan KURDOV, Deputy Mayor

Mr. Kiril KIRILOV, Deputy Mayor

Mr. Hyusein KEHAYOV, Deputy Mayor

Mr. Milka TONEVA, Managing Director, Department of Social welfare, Youth, and Culture

Mr. Asen LUNGANOV, Managing Director, Department of Agriculture

Ms. Rositza NIKOLOVA, Coordinator of Tourism

Ms. Antoaneta JIMOVA, Staff of Public Relations

8. Kazanluk Historical Museum

Mr. Kosyo ZAREV, Director

9. The Regional Tourist Association Strara Planina

Ms. Silvia HINKOVA, Executive Director

10. Tryavna office of The Regional Tourist Association Strara Planina

Ms. Temenuga KOLAROVA, Staff

11. Embassy of Japan

Mr. Yasuyoshi ICHIHASHI, Ambassador

Mr. TAKIGAWA, First Secretary

Mr. Joji MIYAMORI, First Secretary

（2）ルーマニア

1. Asia- Pacific Division, Ministry of Foreign Affairs

Mr. Stoian PETRE, Counsellor

Mr. Ovdiu DIANU, First Secretary

2. Division for European Integration and International Relations, Ministry of Tourism

Ms. Oana BUHAN, Director

Ms. Carmen MORARU, Deputy General Director

Ms. Rodica PENCEA, Deputy Director

Ms. Luminita PANAIT, Counsellor

3. National Association for Travel Agencies

Mr. Mircea VLADU, Vice President

4. ANTREC ROMANIA

Ms. Maria Marilena STOIAN, President

5. TOURISM, HOTEL & RESTAURANT Consulting Group

Ms. Felicia TEODORESCU, Expert Consultant

6. Municipality of Brasov

Ms. Daniela MOASA, Inspector, International Affairs Devision

Ms. Lobb Diana, Territorial Representative, Brasov county, Ministry of Tourism

Ms. Psanu Danieza, Territorial Representative, Brasov County, Ministry of Tourism

Mr. Lica Marian, Head of Tourism Department, County Council of Brasov

Ms. Sima Andreea, Officer, Tourism Department, County Council of Brasov

7. Embassy of Japan

Mr. Keiji MIURA, Counsellor

Mr. Masanobu YOSHII, First Secretary

Mr. Ryohei TOBIBAYASHI, Attache

II　調査対象コースの概要

１．コースの目的

事例として、清里の地域開発経験を理論、実践から学び、また、清里に関係するグループの活動の紹介や地域の人々との交流を通じて、研修員自身が担当する地域の観光を通じた地域開発の計画を策定できるようになる。

２．コースの設立の経緯

中・東欧諸国の多くは、独自の文化と名所、世界遺産等を有し、観光業が国の主要産業になりえる潜在性を持っており、観光振興は国内の経済の発展の為に非常に大切な分野である。

特にブルガリア、ルーマニアでは、豊かな自然や観光資源を有しているものの、観光業が振るわず、これら資源を利用した観光開発や観光を通じた地域開発、観光資源の保全等について日本の事例を学習することが同国の観光開発に不可欠である。

３．コースの到達目標

（１）地域内でのネットワーク造り、ソフト造り、物造り事業及び振興行政、（２）清里観光振興会、八ヶ岳高原活性化研究会、八ヶ岳を歩こう会、八ヶ岳高原ことばの学校での事例学習、（３）仮想プランの作成およびプレゼンテーションを通じたディスカッションを通じて、帰国後自国において地域開発の中核になり得る情報を修得せしめる。

III　ブルガリア・ルーマニアの一般情報

１．ブルガリア

（１）　国名：ブルガリア共和国（Republic of Bulgaria）

（２）　面積：１１．１万km2（日本の約３分の１）

（３）　気候：バルカン山脈の北側は内陸性気候、南側は地中海性気候。

（４）　人口：７９７万人（０１年３月）

（５）　公用語：ブルガリア語

（６）　人種構成：ブルガリア人（約８０％）、トルコ系（9.7%）、ロマ（3.4%）、その他

（７）　通貨：レフ（複数はレヴァ）

（８）　宗教：ブルガリア正教（85.0%）、イスラム教（13.0%）、ユダヤ教（0.8%）、ローマ・カトリック教（0.7%）、プロテスタント他（0.5%）

（９）　政体：共和制

（１０）　主要産業：農業（穀物、酪農）、工業（化学・石油化学、食品加工）

（１１）　国民総生産（GDP）：124億米ドル（1999年、EBRD）

（１２）　１人当たりGDP：1,513米ドル（1999年、EBRD）

（１３）　経済成長率：5.8%（2000年見込み）

（１４）　観光関連情報：2001年の国際観光収入は12.01億米ドルで、2000年に比べて11.8%増、GDPの8.9%に相当する。国内観光を含む観光会計は、GDPの12-13%に相当する。外国からの観光客数は、1999年208万人、2000年235万人、2001年275万人となっている。ギリシャ、ドイツ、イギリスが上位を占めている。

２．ルーマニア

（１）　国名：ルーマニア（Romania）

（２）　面積：237,500km2（本州とほぼ同じ）

（３）　気候：温暖な大陸性気候

（４）　人口：約2,249万人

（５）　公用語：ルーマニア語

（６）　人種構成：ルーマニア人（89%）、ハンガリー人（7%）、その他

（７）　通貨：レイ

（８）　宗教：ルーマニア正教（87%）、カトリック（5%）、プロテスタント他

（９）　政体：共和制

（１０）　主要産業：金属（鉄鋼、アルミ）、工業（機械機器、繊維）、鉱業（石油）、農業（小麦、トウモロコシ）

（１１）　国民総生産（GDP）：約367億米ドル（2001年）

（１２）　１人当たりGDP：1,644米ドル（2001年）

（１３）　経済成長率：5.3%（2001年）

（１４）　観光関連情報：2001年の国際観光収入は5.04億米ドルである。GDPの1.36%に相当する。国内観光を含む観光会計は、GDPの12-13%に相当する。外国からの観光客数は、2001年493万人となっている。モルドヴァ、ドイツ、トルコが上位を占めている。

IV　調査報告

１．はじめに

今回の調査は、今年度新たに設けられた「地域住民参加型開発手法～高原地域・清里の環境調和型観光開発を事例にして～」について、研修員派遣国となるブルガリアとルーマニアの当該分野の実情を把握し、研修の実施内容に反映させることを主たる目的としたものである。

東欧の、しかも隣り合わせた両国は、気候・風土など共通するところが多いが、民族性と文化の違いは想像を超えて大きく、その首都の雰囲気は大きく異なったものだった。しかしながら、観光に寄せる期待は両国共に大きく、また、エコ・ツーリズム、農村観光、文化観光など所謂、オルタナティブ・ツーリズムに対する理解と期待が大きいことも共通していた。

そして、研修コースの特徴として、中央官庁ではなく、地方レベルの観光振興あるいは地域開発に携わる行政官を対象にしていることがあげられるが、両国共に、その趣旨はよく理解され、主旨に適った人材が選考され派遣されるという感触を得ることができた。

また、両国共に、オルタナティブ・ツーリズムをテーマに活動するＮＧＯが独自に活動していることが確認できたが、行政との協力関係はまだ充分ではない。地域開発を考えていく場合、ＮＧＯとの連携は非常に大きな推進力となる場合が多いので、将来の可能性として記録しておきたい。

以下、両国での実情調査により、研修の実施内容に反映する必要があると思われたことについて概要を報告する。

２．報告（ブルガリア）

「グラス一杯のワイン、一切れのチーズとパンがあれば満足」とは、ブルガリアに到着した日に聞いた、ブルガリア人には概して上昇志向がないという話。共産主義時代、人々に植え付けられた一種独特の諦観と聞くこともできるが、経済発展が自然環境を破壊し続けている現状において、見方を変えれば、持続可能なライフスタイルを支える一つの価値観ということもできるのではないか。このメンタリティーに基づく、素朴な人々の生き方というのは、オルタナティブ・ツーリズムを構築していくうえで、人々に共感を呼び起こすメッセージとなりうるのではないかと思われた。

バラ祭りが有名というカザンラックを訪問。機械、繊維、ポンプ、バルブ、電気、土木など市長が説明するカザンラックは、各種の工場が集中する中核工業都市といった趣。しかし、民主化の後、社会主義と資本主義の悪いところを合わせたような危機的状況とのことだった。実際、地域を案内していただいたが、工場には生産の活気みたいな雰囲気が一切感じられず、また、有名なバラ祭りが行なわれたというバラ畑も、人の手が行き届いた豊かな畑という感じがせず、地域全体に自律の風が感じられず、流れのままに風化しつつあるという印象を拭えない。既に、カザンラックはバラがブランドとして認知されているわけだが、実際にそのことが感じられたのは、市長の名刺だけ。バラ油という、工業製品の原料としてのバラだけでなく、観賞用のバラの栽培も手がけ、特に市の中心部の広場をバラ公園化することなど、試みるべきことは多いと思う。

一方、カザンラックには、世界文化遺産に指定されている紀元前３～４世紀のトラキア古墳があり、郊外には、露土戦争でブルガリアを守るために戦い戦死した兵士を祀るロシア正教の教会、峠には戦跡がある。これらの「歴史」は、いずれも観光資源として強力な存在。古墳、教会という「施設」の魅力もさることながら、中世から近世、現代に至るブルガリア固有の歴史自体が興味深く、そしてカザンラックの土地が物語性に富んでいるという印象を持った。

カザンラックの「物語」をツーリストに語る人とソフトが必要。この点、研修ではキープ協会が環境教育事業で培ってきたインタープリテーション（人と自然の橋渡し役）のノウハウと、そのインタープリター養成のプログラムを取り入れて行なうのが有効であると思われた。

カザンラック地域は、割合、平坦な土地柄で、幹線道路の交通量もさほど多くなく、ツーリストの移動手段として、自転車に向いているという印象を持った。実際、クルマで案内していただいたが、所々、止まって風景や民家などをゆっくり見たいという場所があった。市街地からロシア正教の教会まで往復２０キロ程度で、１日のプログラムとして、自転車による歴史・文化ツアーが成立するのではないか。その際、目的地の教会のある村で、昼食に、伝統的なブルガリア農村料理を村人の手作りでのサービスがあると面白い。

経済省のマリノフ局長によると、また、市橋大使も同様の感想を述べておられたが、地方行政のレベルでは、政策立案および実施能力を持つ人材が殆どいないということである。どうやらニーズはその点にありそう。その点は、清里においても同様の経緯があるので、「ポール・ラッシュ祭」という具体的な例で学んでいただけるようにしたい。また、ソフィアで話を聞いたＢＡＲＤＡ、ＢＡＡＴ、ガブロバのＳＴＡＲＡ　ＰＬＡＮＩＮＡ等のＮＧＯには、資金はないが少なくとも行政を上回る相当のノウハウと情報の蓄積があるように思われた。行政とＮＧＯの連携が今後、地域開発のキーポイントになるのではないか。そういった意味で、研修では、地元の民間団体（ＮＧＯ）と行政の連携による地域活性化事業を事例紹介に取り上げていくこととしたい。

３．報告（ルーマニア）

「ルーマニアにはコミュニティがない」とは、ブカレストに到着しその足で訪れた大使館で聞いた最初の情報。これは、人々はあまりにも個人主義で、皆で協力して町のために何か行なうといった共同体意識がないということのよう

だ。皮肉なもので、日本の社会でも同質の問題があるが、共同体というのは、人は一人では生きていけない、寄り添ったり、助け合ったりして何とか生きていくというところから始まったものだと思うが、つまり、個人主義は、実は共同体に支えられているのであって、観光開発でいうところの、点から面へ、点と点を結ぶ線をいかに作っていくか、という発想に通じると思われる。

シナイアは、ブカレストからクルマで約２時間の距離にある山間の避暑地。博物館となった中世の城、僧院など歴史的建造物が多く残っており、また、ロープウェイで登るオモ山など、２～３泊しても飽きない見所の多い街である。聞くところによると、地元の人々の生活は苦しいようで、古い家がほとんど廃墟寸前の状態に放置され、町並みの景観を暗くしている。意匠的に魅力的なこれらの住居を補修し塗装するなど再生措置を講じれば、この地域の町並みは充分に観光資源になりうると惜しまれた。

ブラショフは、想像を遥かに超えて大きな町だった。新しい市街地が平野部に広がり、旧市街が山間に展開している。ブラショフのランドマーク、ブラック・チャーチの偉容には驚かされた。また、旧市街広場から始まる石畳の目抜き通りも、インパクトが強い。ただし、建物、町並みが優れていても、各商店に活気と魅力がない。オルタナティブ・ツーリズムを主題にしながら、個人的には、この目抜き通りをアウトレットモール化したら、マス・ツーリズムの拠点になりうるのではないかと想像してしまった。クルマで市街地を見る限り、旧市街地全体をエコミュージアムとして保存に努め、ガイドマップ等を備えれば、魅力的な観光地になるのに大して時間は要さないのではないかとの印象を持った。

ブラショフから山に入ったところに街全体がリゾートといったポイアナ・ブラショフがある。スキー・リゾートとして既に有名なところ。地域住民の生活の匂いが全く感じられない人工的な趣である。皮肉なもので、豊かな森林、緑

の草原など自然は豊かなのだろうが、人工的という印象のみが残った場所だった。

吸血鬼ドラキュラ伝説の起源となった城が観光スポット化しているブランは、日本のペンションにあたる小規模宿泊施設が散在している農村観光を売り物とした村である。「ドラキュラ・パーク」といったかテーマパーク構想もあるようだが、ハードの仕掛けより、ドラキュラが夜徘徊する村といったイメージを、ソフトの面で仕掛けていくと非常に面白い展開が期待できる。何事を為すにも村人の個人主義が妨げになるようだが、低次元での協調という名の足の引っ張り合いよりは、共同体のあり方として健全であるのかもしれない。

ルーマニア政府の観光省、ブラショフ市役所の観光局を訪れたが、主要なディレクターは全て女性だった。これは他の省庁においても同様の傾向であるそうな。清里では、家庭を顧みず「まちづくり」に血道を上げるのは男と相場が決まっているが、まちの日常は実は女性と子どもで成り立っている。男勝りということもあるだろうが、地域開発、地域振興、まちづくりを考え行動するときは、その土地の女性の感性が必要であると思う。その点、ルーマニアは国づくり、まちづくりの主役が、少なくとも、絵を描く立場の役所が女性スタッフ中心であるというのは頼もしく楽しみなことで、寧ろ私たちが学ぶべきことが大いにあるのではないだろうか。

４．研修に対する提言

研修では清里の事例と、ＰＣＭが主体となるが、研修の初めに、そもそも旅とは？観光とは？何故、環境調和型なのか？住民参加型なのか？コミュニティとは何なのか？といった基本事項について、定義付けを行ない、使用用語の共通理解を図ることを位置付けておく必要があると思われる。そのうえで、清里の事例を、短く限られた実情調査ではあったが、現地のニーズに照らし合わせながら、紹介していこうと思う。この作業を通じて、清里のオルタネイティブ・

ツーリズムへの本格的移行に弾みがつくことを期待しつつ。

５．団長総括

（１）ブルガリア・ルーマニアの観光セクターの現状

	ブルガリア	ルーマニア
観光収入ＧＤＰ比	8.9%（2000年）	12-13%（2001年）
外国人入国者数	2,750千人（2001年）	4,930千人（2001年）
観光収入（ＵＳ百万＄）	1,201（2001年）	504（2001年） 国際観光のみ
観光担当省	経済省観光局	観光省

（２）両国の観光の現状

夏期の黒海沿岸（ビーチリゾート）と冬季の山岳地帯（スキー等のウインタースポーツ）でのマスツーリズムが過去の主流であった。

しかし、海外観光客の大多数がヨーロッパからであり、両国ともに観光の強力なライバルが周囲に存在している。つまり、海岸に関してはイタリア北部海岸やアドリア海がより観光資源として質が高く、同じことがウインタースポーツに関しスイス、イタリアがあげられる。

従って、従来型のマスツーリズムだけでは、距離と観光資源としての低評価を低価格の設定で対処しているため、収益率は低い点を改善できないと思われる。

（３）両国の観光政策の推移

観光セクターは、両国に取って国際貿易収支の赤字を埋める大事なセクターであり、今後ともその重要性に変化はない。

また、東欧改革以降、過去の全て国有化スタイルから民営化へと、観光セクターは基本的に民間の手で行われることが認識されている。その中で、観光関連省庁にもまた一部ＮＧＯにもオルタナティブツーリズム（全ての観光形態から、マスツーリズムを除いたもの、例としてエコツーリズム、グリーンツーリズム）の導入の必要性が認識され、既に一部では、ＥＵ等からの資金導入によ

り必要な人材養成、規格の認証が開始されている。

しかしながら、これらの動きは今のところ理念と外国での先例の導入という形で行われている。

つまり、地域住民の積極的な参加によるいわゆる“町おこし”には至っていないのが現状である。

（４）地域住民参加型開発手法コースを行う妥当性

両国の観光政策の推移で述べたとおり、オルタナティブツーリズムへの認識は既に浸透しており、かつ参加型開発手法の導入は両国の地方分権政策の発展のためにも重要な視点となろう。

（５）当該コースの運営に関する勧告

研修員の資格要件に関してはＧＩにかかわらず、本年に関し両国の地方公務員に限定すべきである。

これは、来日研修員の質の均質化が目的である。

また両国ともに日本と友好関係にある市（幸い観光開発・地域開発の該当地）があるので、１名を当該市職員に割り振る。

また、講義の中に日本国内の友好都市の事例を付け加える。

講義の冒頭に、日本の観光政策、日本の観光振興策の講義を加える。

Ⅴ　打ち合わせ要旨

１．ブルガリア

June 30 Sun. 14:30 Meeting with Mr.SAKUMA, JICA Expert

現在文化観光、The Monestry Routeの案を作成中。黒海沿岸に観光業が集中しており、内陸には何もない。年間270万人の観光客が訪れるが、内訳は100万人がEUから、170万人がその他の国から。観光で村おこしをするのは、政策の一つ。日本人は約4000人。昨年の9．11の事件の影響はほとんどない。主として、中年層の夫婦、家族がパックで来る。滞在型ではなく、巡り型。ヨーロッパに来る人たちの目的は、自然を含めた文化観光。作成中の案は、修道院巡り。売り込みの仕方、パンフやインターネット作成のアイディア提供。

Alternative Tourは地域開発の自主組織で、行政関係との協力少ない。持っている資源を活用する、開発する、発展させる力が不足。地元優先で、見学料、ガイド料が地元に落ちるようにやっているところもわずかにある。

July 1 Mon. 11:30 Meeting with Mr.TAKIGAWA, First Secretary of Technical cooperation, Japanese Embassy

ブルガリアは、中央と地方の格差が大きい。将来的に日本がどういう協力をしていくべきか、提案してもらいたい。カザンラックのバラ祭りに行ったが、ホテルには日本人向けに歯ブラシが置いてあった。

ブルガリアは貿易赤字を観光収入で埋めている。遺跡などの観光資源はあるが、見せるような形になっていない。協力隊員から聞くと、Data Baseがようやくできた、暖房、照明が不十分、といった所もまだある。

カザンラックはバラ以外の地域の優位性を見出す必要がある。生産性の高いもの、付加価値の高いものが必要。バラは季節もの、年間通じて集客できるものが必要。問題を抱えている地域の組織化、連携も必要。

July 1 Mon. 14:00 Meeting and discussion with Mr. Radoslav STANOLOV, Senior Expert, EU Programmes and Japan s Technical Assistance Div., Ministry of Economy and Mr. Ivan GADELEV, Senior

Expert, EU Programmes and Japan s Technical Assistance Div., Ministry of Economy

研修コースは、開発計画を作成する内容であるが、それらを実際に実施できるかは、ブルガリア側の主体性が必要。研修コースの最終目的は、主体的に動く人材育成。

ブルガリアでは観光が主産業。将来にわたって、有望な産業。夏、冬の観光レベルは高いが、文化、エコツーリズムももっと高い位置を占めるべき。ブルガリアは自然が豊かで、観光資源も多い。独特の生活様式も残っている。カザンラックは、バラの谷で、博物館もある。100ヶ所以上、国内にこのような場所がある。それらを活用すべき。研修でその活用方法を教えてほしい。現在、地域開発、観光の部局に半分ずつ割り当てをしようと思っている。

観光関係では、特に市レベルから出してほしい。

研修員には実行性のある計画を作ってもらいたい。帰国後、キーパーソンとなり、問題認識、問題解決を図る、コーディネーターとなってもらう。具体的な仕事はケースバイケースであるが、例えばエコツーリズムを考えると、なぜ環境が大切かみんなで議論し、必要な人材を育成し、財政を確保する。具体的解決方法を考える。

研修員が帰国した際には、ヒアリングする。

July 1 Mon. 15:15 Meeting and discussion with Mr. Ivo MARINOV, Director, National Tourism Policy Directorate, Ministry of Economy and Mr. SAKUMA, JICA Expert

ブルガリアの優先課題は、観光、先端技術、インフラ、エネルギー。

カザンラック訪問は適切。観光が発展すれば、他の部分も発展する。現在、観光施設の98%は民間所有。もともとは、ホテルへの投資から始まり、サービスが向上した。黒海のリゾート、冬の山で。観光収入は年10%増。今年の売上は、10億ドルを超えた。客は、主にドイツ、ロシア、スカンディナビア諸国。

課題

設備の過剰集中。70%が黒海、高い山に集中。これらは季節に左右される。７～９月に観光の70%が集中。バランスのとれた観光の発展が必要。エコ、文化、村、ブルガリアの伝統様式を発展させた観光が大切。

優秀な人材育成。今回の研修は役割が大きい。地方の人たちにはプランニングの経験が少ない。

ブルガリアの観光の近況：観光法が1ヶ月前に採択された。まだ発効していない。それは、ツアーオペレーター、ホテルの活動方針を定めたもの。EUに合った活動方針。観光の地方分権で、市やNGOに権益を移すもの。議会で、地域開発、観光産品の再検討がされて、その後、ストラテジーを作成予定。

観光税の徴収を1月から開始している。宿泊の際に徴収、それらを財源に観光を発展させる。各市が使い方を決定できる。

現在、Currency Boardが厳しく、資金調達の方法を考えている。国外との協力も進んでいる。

アメリカ。生物多様性と持続可能な開発をテーマに、2つの国立公園のプロジェクトを支援。

モナコ。黒海沿いの湖沼地帯保存のプロジェクト。

世銀。ドナウ川の生物多様性。

ドイツ、スイス。コンサル。

EU。文化観光に800万ユーロ投資。文化財修復、インフラ整備に使用。マーケティングと広告、文化財のゾーニング、新しい道路建設（1,500万ユーロ）。エコ観光（600万ユーロ）。農村開発プロジェクト（5,300万ユーロ）。

マスツーリズム、個人観光、どちらが本当に利益大が疑問。それぞれの役割がある。

個人観光を市場にのせるには、人材育成、インフラ、マーケティングが必要。

UNDPがパイロットプロジェクトを実施。今までさまざまなプロジェクトを実施しているが、中途半端。１ヶ所に集中して、その後波及効果を狙う。

BARDA、BAATは商業ベースの組織。経済省と密接な関係。農村観光、エコ観光協会は学問ベースの組織で、そこから研修に参加する人がいてもいいかもしれない。

カザンラックはモデル地域にできるかもしれない。バラ、トラキア古墳、温泉、ローマ時代の遺跡がある。多面的に理解して、プロジェクトを。

July 1 Mon. 16:30 Meeting with Ms. Petya ATSINOVA, President of the Board of Directors, Bulgarian Association of Regional Development Agencies and Business Centres, Mr. Ivo TZAREV, Director, Smorian Regional Development Agency and Mr. Kiril DRAMOV, Training Manager, Bulgarian Association of Regional Development Agencies and Business Centres

1993年に設立された地域開発のための最初の組織。7－6の地域をカバーしている。各地域の地方政府や大学、ＮＧＯ、協会をお互いが助けあえるようにコーディネートしている。主には、経済開発を手助けしており、中小企業育成を進めている。32のレギュラーメンバーと15のアソシエイトメンバーがいる。それらの統括組織である。EU、ドイツ、アメリカ、国連などの組織と協力関係にある。ブルガリアはまだ中央指導型の国であるため、ソフィアにメインオフィスを構え、各地域にもオフィスを設置している。6つの地域で、昨年から計画作りを始めた。当組織の役割は、情報提供、国家レベルとの連絡、メンバー組織の研修、関係会議への参加、ドナーとの連絡である。研修で扱うテーマは、ビジネスコンサルティング、EUプログラム、マーケットコンサルティング、クォリティマネージメントシステム、スポンサー探し等である。カナダとの連携で、研修を実施したこともあり、カナダで50人が研修を受けた。ベルギーからフランス語での講師を招き、中小企業振興の研修も行った。職業訓練の研修も行っている。地域開発と中小企業育成は密接につながっている。ビジネスサポートがメインの仕事である。

July 1 Mon. 17:30 Meeting with Mr. Lubomir POPIORDANOV, Chairman, Bulgarian Association for Alternative Tourism and Ms Lili GENOVA, Office Manager, Zig Zag Holidays Ltd.

若い組織で、小さなホテル、観光促進企業、地域観光協会等の統括組織である。競合する組織はない。オルタナティブツアーにブルガリア人はお金を払い始めた。中小企業育成、民間育成は実施している。行政の人材育成がもっと必要。地方観光の情報提供を行っている。小さな村や町に対する、製品作りや売り方の研修も行っている。メディアとの関係もよい。

July 2 Tue. 14:00 Meeting with Mr. Stefan DERVISHEV, Mayor of Kazanluk city, Mr. Ivan KURDOV, Deputy Mayor, Mr. Kiril KIRILOV, Deputy Mayor, Mr. Hyusein KEHAYOV, Deputy Mayor, Mr. Milka TONEVA, Managing Director, Department of Social welfare, youth, and culture, Mr. Asen LUNGANOV, Managing Director, Department of Agriculture, Ms. Rositza NIKOLOVA, Coordinator of Tourism, Ms. Antoaneta JIMOVA, Staff of Public Relations, Municipality of Kazanluk,

and Mr.Kosyo ZAREV, Director, Kazanluk Historical Museum

市長として、3年間つとめた。福山との長い協力関係は大変うれしい。広島ともビジネス関係がある。福山との関係では、意見をお互いに交換してきたが、実施に至っていない。そろそろその時期である。カザンラクックは、16の村も含んでいる。

協力を進めるには、市のイニシアティブ、計画が必要。いろんな日本の協力ツールを利用するためにも、5－10年のビジョンが必要。

カザンラックには5年間のストラテジーがあり、60のプロジェクトがある。一部は進行中であるが、残りはそうではない。ブルガリアのマンチェスターと呼ばれる当市は、バラ産業以外にも、機械工業、軍事工業、ポンプ・バルブ製造業、繊維工業、弦楽器製造、フォルクスワーゲン電子部品工場、木造業、酪農（5年ですべてのEUの基準をクリアできる、レベル高い産業）、食品産業、ミシン、バラオイル関連業（大きな企業２社、加工業者7,000社）、ヨーロッパ唯一のバラ研究所がある。

気候がバラオイル、バラエッセンス、バラ水を作るのに最適。ただし、民主化後、産業は大変な状態。資本主義、社会主義の悪い面を合わせたような状況。

プロジェクトについては、バラ、ラベンダーをオイル作りのプロジェクトを行おうと土地を確保したが、フランスの会社が入り始めた。ジャム、薬品を作るプロジェクトがある。観賞用のバラとオイル用のバラを合わせたものを作るプロジェクトがある。2000年以上前の文化財が多いので、エコ観光、文化観光、歴史観光を進めたい。通信面のインフラ整備、交通、病院等のプロジェクトがある。

協力隊、専門家派遣については、環境を整備するので、ぜひ送ってほしい。

観光開発分野では、現在、文化財を利用した観光のプロジェクトを作っている。エコツーリズム、文化観光の専門家を送ってくれるとタイミングが良い。

バラ祭りでは、日本と韓国からの観光客が一番多かった。

また、カザンラックに国際考古学センターを作る。協力隊員や学者を送ってほしい。一緒に発掘等をしたい。

現場視察

トラキア人の墓：紀元前４世紀後半から３世紀頃のもの。トラキア人のフレスコ画で、戦闘場面や葬送儀礼の様子が描かれている。1979年に世界遺産となった。周辺には８箇所の古墳が新たに発見されている。16度、湿度65％で保存している。

カザンラック周辺の村：Gorno Cherkovishte村のIvan MATANOV村長。1450人の人口。バラ祭の会場の一つとなる。バラ摘み、踊りを行う。100人のホームステイを

受け入れたことがある。アグロツーリズムの可能性。

シプカ僧院：1877－78年にかけて露土戦争で戦死したロシア兵を悼んで建てられた。内部の展示、音楽による雰囲気作りは良好。お手洗いがよくない。

July 3 Wed. 10:30 Meeting with Ms. Silvia HINKOVA, Executive Director, The Regional Tourist Association Strara Planina

７つの地方観光協会をまとめている。エコツーリズム、地方観光開発のサポートを行っている。管轄地域には３つの国立公園がある。環境省のエコツーリズム開発のワーキンググループのメンバーでもある。地方の観光協会や市政府がメンバーであるが、彼らに、研修や情報を提供している。3、4年前に始めたが、講師となる人は多くない。フランスから来たボランティアの講師も未熟であった。新しい日本での研修コース、期待している。山でのハイキング、バイキング、文化、歴史記念碑を利用した観光、山岳地域での製品作りを進めている。ブルガリアの人々は、黒海のマスツーリズムに関心があり、まだ新しいコンセプトに慣れていない。ガイドも今はいない。国とNGOの協力も効率的に行われていない。環境保護意識については、PR会社に、住民に対するPRを実施してもらっているが、時間がかかる。環境教育NGOもいるが、分かれて働いている。それぞれをつなぐコーディネーターが必要。それでも、1－2年はかかる。

スイスのドナーにより、パンフレットを作成。10年前にスイスの専門家がやってきて、この近辺の地域の魅力を見出し、ばらばらの地方観光協会をつなぐために、1996年にこの組織が設立された。スイス、ブルガリアで研修を実施した。

現在、ホテル、レストラン、観光協会で、委員会を作り、ベストホテル、ベストレストランにサービスの保証を意味する証明書を発行している。何を基準にして、ベストというかは、国の基準によっており、見直しが必要と考える。お客の満足度をどう測るか、より良い基準を検討中。

July 3 Wed. 13:00 Observation in Tryava with Ms. Temenuga KOLAROVA, Staff of the touristic bureau in Tryavna, Stra Pranina on Angel Kanchev Street

この地域のホテル、民間のVILLA、普通の家に宿泊できるよう、アレンジしている。宿泊施設の基準は、観光法によって、分類されている。普通の家が宿泊施設として認められるには、１．市に願書を提出、２．市が判断、３．登録料の支払い、期間は4年

間である。各宿泊施設の星の数は、市と経済省で決める。普通の民間の家は、星が2つ。B&Bのようなもの。サービスでなく、設備で星の数が決まる。星の数で、宿泊施設のタイプを分類する。

この組織では、宿泊所の斡旋、PR活動、レンタサイクル、コピー、FAX、山のレスキュー隊、グループ、個人向けの山のルート案内等を行っている。

財政面は、スイス政府が事務経費を負担している。市はスタッフの給料を支払っている。収益は事務諸経費にまわされる。

この組織のメンバーは観光関係者であり、組織化され、彼らは割引でサービスを利用できるようになっている。スイス政府のお金はもうすぐ止まる。協会のメンバーから会費を徴収して、運営していかなくてはならない。コーディネーターとして、協会が関係者をつないでいる。

この地域の売り物は、歴史的な時計台、教会、博物館である。2002年中にトリャバナには新しいホテルが3件建設され、マスコミ、観光客から関心が高い。

トリャバナの観光客は、個人が50%を占める。グループ客は50%。新しいホテルには、グループ客、外国人客、会議のための客が来る。

外国人は全体の40%を占める。大きいホテルができたので。経営状態もよい。巡り型の1泊がここ。個人的に来る客も増えている。7月に２週間、学生を受け入れる。伝統、芸術の勉強、トレッキングを行う10人、10日間のツアー。

職業ガイドは、まだ博物館にしかいない。フランス語、ロシア語、英語、ドイツ語のガイドが5，6人いる。ガイドテープもある。ガイドは研修を受けている。大きなエージェントは、ガイドを持っている。

今後観光客増によって、大変なことは、他の新しい見世物が必要であること。オプショナルツアー、付加価値を高めていく必要がある。また、新しいホテルも必要。

今は、高級ホテルより村の伝統的宿に人気が集まっている。アドベンチャーツアー、洞窟ツアーも開発中。

農村に、宿泊施設として適当な候補はたくさんあるが、修復、改装する余裕がない。スイスからのお金はこれらに使えない。協会メンバーのためのお金でしかない。

協会は、情報発信者であり、広告塔である。

農家を宿泊施設にしたとしても、元来の農業に影響はない。もともと、小麦、米しか栽培できない。野菜は栽培できない。

July 4 09:30 Meeting and discussion with Mr. Ivo MARINOV, Director, National Tourism Policy Directorate, Ministry of Economy and Mr. SAKUMA, JICA Expert

カザンラックについて：観光業実施の主体は、自治体、民間である。市長は選挙前になると観光に力を入れるという傾向がある。前のカザンラック市長とは関係がよかった。調査団のアドバイスを実現するには予算が必要だ。

カザンラックには観光開発の意志はあるが、手順がよくわかっていないのではないか。したがって、日本での研修に参加する意義は大きい。

カザンラックから１人というのは同意する。市レベルの人を出すのも全く問題はない。報告書はカザンラックに提出していないので、今後JICAブルガリア事務所にフォローしてもらう。

市場にいかに合わせるか、観光を中心にした地域開発について、佐久間専門家からも提言もらった。岡山とプロティフ（ブルガリア第二の都市）も姉妹都市。小さな都市、町がもっと多く日本と姉妹都市関係であればいいが。

データについて：英語データは国境で観光目的に入国した人の数。

カザンラックのパンフレット：ドイツ語、英語がある。ドイツの支援で以前作ったが、今はもうない。情報は新しいものが必要。

ドイツ政府とのプロジェクト：中小企業振興のプロジェクトが３年前に発足。コプリッツァ、カザンラックで。情報センターを作り、パンフを作った。ベルリン、ロンドンの見本市で配布したが、その後プロジェクトは凍結。

ブルガリアは市レベルで計画を作成するということに不慣れである。特に中小サイズの都市は計画を作成していない。各都市の市長は、～したい、～してください、というが、計画作れない。すべて、アイディアだけ。文書もない。

研修員は、カザンラックやその周辺のヴェリコタルゴ、カルロヴォ等から出しては、と考えている。少し大きな地域をカバーして、地域的な発展を進めたい。ただ、適切な人がいるかが問題。

カザンラックでは、JICAからの協力受入について、前向き。

July 4 10:30 Meeting and discussion with Mr. Radoslav STANOLOV, Senior Expert, EU Programmes and Japan s Technical Assistance Div., Ministry of Economy and Mr. Ivan GADELEV, Senior Expert, EU

Programmes and Japan s Technical Assistance Div., Ministry of Economy

経済省観光局、地域開発省に手紙を書いた。必要な情報は用意するつもりだ。

カザンラックがモデル地域になってくれればと思う。カザンラックは、現在、IT推進計画、クラスター（いくつかの産業組合）推進計画があり、JICAの協力がこれに加われば、その可能性もある。

July 4 14:00 Meeting and reporting result of the survey with Mr. Yasuyoshi ICHIHASHI, Ambassador, Mr. Joji MIYAMORI, First Secretary, Embassy of Japan

福山市長はカザンラックと姉妹都市にはなるつもりはないようだ。あくまで、福山ブルガリア協会が主体となるようだ。ブルガリアの問題は、行政能力が弱い点。政策、立案、実施の力が不足。EU加盟前で、EUからの援助が多く入り、EU志向とも言える。

地域にお金が落ちるようなことを進めるとすれば、リーダーシップ必要。例えば、ドラノヴァという中央山脈の裏側の都市は市長が若くて、元気。やる気がある。人を呼びたいので、いろんなイベントをやっている。日本と姉妹都市になりたがっている。プラスアルファがあるところなら人はまた来る。

資金確保の問題は、今回の研修コースでとりあげないが、清里の事例を大いに紹介してもらいたい。

中央、地方、現場の体制が、整理されていないし、うまく機能していない。自治体の権限、役割が不明確。EU加盟前で、憲法を改正しようとしているが。EUは地域振興、産業振興まではやらない。ブルガリアの優先課題は、環境、農業、観光、ハイテク。親日国である。ユーゴ近くで、安定した発展を遂げてもらえば、それもEUに対する外交の一部。

２．ルーマニア

July 5 Fri. 10:00 Meeting with Mr. Keiji MIURA, Counsellor, Mr. Masanobu YOSHII, First Secretary, Mr. Ryohei TOBIBAYASHI, Attache, Embassy of Japan

コミュニティのあり方が日本と全然違う。研修コースでは、日本を見て、どのようにルーマニアに適用するか見てほしい。研修コースを実施するには、ルーマニアのこともよく知ってもらう必要がある。どこの層にアプローチするか。ルーマニアの人々のメンタリティには、古いものも残っている。市民、市域コミュニティはまだ成立していない。地方自治体はあるが、働く人が問題。例えば、避暑地のブラショフ（武蔵野市と10年間の交流関係にある）は、国営企業がたくさんあるが、民営化できないでいる。新しい産業を興し、地域住民、地域開発をどのように行っていくかが課題。失業により農業人口が増えている。ブラショフが研修コースから何か良いアイディアを得られるとよいが。

中央政権が強いので、コースの情報が地方に流れない可能性がある。地方政権からは案件が出てこない、予算がない。EUから地域開発のお金をもらっても、うまく使えない。

住民間の協力が欠けている。

県知事は中央からの任命制、市長は直接選挙で選ばれる。

ルーマニアは、観光客呼び込むために、日本に対し、一方的にビザを廃止。

観光省を作って、観光業を進めようとはしている。

シギショアラ（アングロサクソンの町）に、中央主導でドラキュラランドを作ろうとしたが、環境問題で場所が変更となった。どこに作るか未定。

地方の啓蒙としては、研修コースの意味ある。新たな視点を持つことができる。地域の特徴ある歴史環境、自然環境を保全するような開発計画を作れるとよい。

ルーマニアは、海外への出稼ぎによるお金が年間10億ドル流入している。社会主義時代は、1つの都市に1つの大工場が作られた。しかし、新しい産業が今は必要。

研修コースには、日本に行きたいだけの中央の人が出てくる可能性があるので、要注意。

シナイア周辺は酪農が盛ん。清里に似た地形。どう開発するか知りたいと思っているだろう。他にも観光の対象となる地域はたくさんあるが、ベースがない。

現在、エコツーという言葉だけに飛びついてくる雰囲気がある。ドナウ川デルタにエコツーの可能性あり。

マスタープランをどのように作ってやっているのか疑問。目先、言葉だけの可能性が高い。ホテルの売却に力を入れている。

July 5 Fri. 12:00 Meeting with Mr.Stoian PETRE, Counselllor, Mr. Ovdiu DIANU, First Secretary, Asia- Pacific Division, Ministry of Foreign Affairs

観光は、政府のメインターゲット。観光資源は、山などの自然、文化等たくさんあるが、開発の機会がまだ少ない。その土地の特徴を生かした観光を開発できるとよいが。

ブランには城、アグロツーリズムがある。多くの山村は、距離的にも遠く、先進的なものからも離れている。いくらか改善できるのではないか。

アズガには、ビールと乳製品がある。

July 5 Fri. 14:00 Meeting with Ms. Oana BUHAN, Director, Ms. Carmen MORARU, Deputy General Director, Ms. Rodica PENCEA, Deputy Director, Division for European Integration and Internatonal Relations, Ministry of Tourism, an Mr. Mircea VLADU, Vice President, National Association for Travel Agencies

研修コースの候補者について、7，8人の候補者を出したい。観光省の出先機関として、地方政府で、その地方の開発に携わっている者も候補者に含めたい。

オルタナティブツーリズムについての国内政策

今年はエコ観光年なので、積極的に進めている。「クリーンルーマニア」というキャンペーン、エコデータの収集、研修コース、ホテルの新設等を進めている。

セミナーはANTRECと一緒に進めている。EU、ヨーロッパの協会とも協力している。ブコビナ、マラムレシュでは、地方の人たちとオルタナティブツーリズムのプロジェクトが進んでいる。ブコビナは、ドイツ政府が支援している。プロジェクトの名前は、ゴールデンブコビナ。パンフレットは、ドイツ政府と観光省で半分ずつ出資して、作った。マラムレシュは、州政府と協力している。2つのプロジェクトは、ルーマニアの国家基準を作成することにも参加している。

現在、中央と地方の間に新しいコンセプトが生まれている。

他に、黒海のビーチをきれいにするプロジェクト、エコツーリズムのプロジェクトがある。

過去6年の間、地方観光、エコ観光、持続可能な観光はだいぶ発展してきた。国際レベルのトレンドに合わせるよう、観光省も動いている。民間主導の動きもある。

July 8 Mon. 10:00 Meeting with Ms. Daniela MOASA, Inspector, International Affairs Devision, Municipality of Brasov, Ms. Lobb Diana and Ms. Psanu Danieza, Territorial Repesentative, Brasov county, Ministry of Tourism, Mr. Lica Marian, Head of Tourism Department, County Council of Brasov, Ms. Sima Andreea, Officer, Tourism Department, County Council of Brasov

研修コースについて、ブラショフとしても興味ある。

ブラン城周辺は小さな地域で、グリーンツーリズム、エコツーリズムを進めている。地域開発の一つである。主にANTRECが進めている。

ブラショフのプロジェクト

青少年への環境教育：生物多様性、自然保護地域（まだ始まったばかり）

国立公園：トレッキングルートの再整備、キャンプによる青少年への環境教育

セミナー：いくつかの協会が参加し、自然資源の分析を行った

地域住民の参加の手法は変わりつつある。まだ最初の段階。青少年への教育を通じて。青少年は、この地域だけでなく、他の地域の人も含む。

全国のエコツーリズムの再構築についての大きな計画がある。

4月に国の全体戦略を作成するのに、全国から人が集まった。ブラショフも参加し、自分達の考えを提案した。

地域コミュニティにサービスの方法を教えている。地域コミュニティのコンサルタント役を行っている。

ブラショフ地域には、ブラン（日本人が経営するVILLAがある）、ブラデール、ボイアナブラショフ等、エコツーリズムを行う村や家がある。

ANTRECの人がブランにいる。

武蔵野市とは10年間の交流の歴史がある。記念式典を実施。8月には学生がやってくる。

ブラショフは、スキーリゾートで有名なので、夏と冬では観光客の数が大きく違う。通年で人を呼びたい。観光客の内訳は、20%が外国人、80%が国内。外国人は、ドイツ、ロシア等で、日本人は少し。

ブラショフ美術館：特別な古い本がある。全世界の国民について書かれている。

マラムレシュ、モルドバ（修道院）、山、エコ製品、野菜といった観光資源はたくさんある。

スタッフが、パリで地域開発の勉強をした。

JOCVの日本語教師がいる。武蔵野市からのコンピューター教育のボランティア2名。

地域で、オルタナティブツーリズムを進める時は、動物、自然を管理している人がカウンターパート。

July 8 Mon. 12:00 Sight Survey in Bran village

日本人経営のペンションで：

もともと黒真珠の輸入をやっている。ルーマニア人の妻と3年前に結婚し、去年4月にこちらに移ってきた。この建物は、建設途中に売り出されたものを購入。宿泊料、車の台数等を近辺のペンションで調査し、作った。先週は議員が泊まりに来た。7月にオープンしたばかり。周辺は1泊20ドルくらいの宿が人気。こちらは今4つ星で、1泊30－35ユーロ。建物は3000万円くらい。月のランニングコストは500－700ドル。いろんなものがすぐ壊れるので、修理代が高い。

コミュニティといった組織だったものはない。みんな顔見知り。町ぐるみで何かをやるといったレベルにはまだ達していない。食べるだけでせいいっぱい。どうやって生き延びていくかが問題。

ペンションはサービスするというよりは、投資したお金の回収に重点が置かれている。食べ物は、ブラショフの一番いいホテルでもまずい。サービスを良くすれば、お客さんはその価値を分かってくれる。やりがいがある。

資本主義の感覚は、まだこの国では不十分。

一方、日本ではサービス、産業が成熟してしまっているので、おもしろくない。

ドラキュラのブラン城はとても有名。この地域に泊まってもらえる工夫が必要。企画力を養って、地元の気候、風習を使えば、人を呼べる。この周辺にはもっといろんな魅力をもった所がある。

すでに来たお客から、次の予約を受けている。

小さな宿なので、パンフレット、インターネットくらいで広告する予定。

July 9 Tue. 11:00 Meeting with Ms. Carmen MORARU, Deputy General Director, Ms. Rodica PENCEA, Deputy Director, Ms. Luminita PANAIT, Counsellor, Division for European Integration and International Relations, Ministry of Tourism, Ms. Maria Marilena STOIAN, President, ANTREC ROMANIA, Ms. Felicia TEODORESCU, Expert Consultant, TOURISM, HOTEL & RESTAURANT Consulting Group

ブラショフは、観光開発の最初の拠点の一つ。ボイアナブラショフには、新しいVILLAがたくさん建った。

NGOであるANTRECの活動もブラン、ブラショフから始まった。現在、41地域をカバーし、37事務所を持っている。

観光省は、エコ観光年なので、プロの組織、地方政府と協力して、観光開発を進めている。プロジェクトはたくさんある。

ドナウ・デルタ

ゴールデン・ブコビナ（ドイツ政府と）

マラムレシュ

これら3つの地域は、すでに有名な観光地

スキーエリア

ヘルスリゾート

ブコビナのヨーロッパリゾート

ドナウデルタではエコツーリズムを中心に進めている。観光省は、宿泊施設や自然資源の利用方法について、アドバイスを与えている。自然保護地域では、立ち入りを制限し、許可制をとっている。小さなボートで、デルタ地域を観察する。ガイドは、観光省認定の研修を受け、認定証を持っている。観光省の仕事は、監督すること。おおきなホテルは作らず、小さなボートで観光し、人数を制限する。各支流をバランスよく利用する。民間のイニシアティブもある。ドナウデルタは、世界中に知られている生物多様な保護地域であり、環境省も管理している。環境省は基準を作っているので、観光省はそれに沿った活動をするように監督している。

統計を見ると、海外から観光で来る外国人のうち最も多いのは、ドイツ、オーストリア。

調査団の報告について：

観光地、おみやげの改善については、ほとんどが民間主導。研修は必要ないが、行政からのアドバイスがあってよいのでは。

ブラショフの大通りの商店街は、行政のサポートを得て、活性化すべき。

ブランでは、すでにVILLA共同のパンフレットを作成している。

研修への候補者の一部は、中央政府から派遣されて、地方政府で働いている人OK。そのような人は、全国で12人。彼らの任期は特に決まっていない。

ANTREC：

10年前、初めてブランで活動開始。パンフレットは観光省の協力で作成。活動開始時は、地元の人々が集まって何かをするのを嫌った。1994年に組織として設立された。1000村に地方オフィスがある。主に地元の宿泊施設を売り込み、自然、伝統を利用した観光を促進するのが仕事。国際会議が海外で行われる時に出席することもある。その際には、ハンディクラフトや陶磁器を売り込む。それらの売り込みのために、国内展示会にも参加する。

他に、青少年にオルタナティブツアーの経験を提供するという活動も行っている。

観光省は、フランス、ドイツ、オーストリアに事務所があるので、それらを通じて、商品を売り込んでもらっている。

活動の方向としては、インフラがまだよくないので、エコツーリズムにふさわしいゲストハウスを整える。また、地域の人々に対し、環境保護、観光資源保護の教育を行う。小さな子供達に対し、サマースクールを通し、教育を行う。

プロジェクト毎に、EU、USからお金がくる。組織自体は自己資金で運営される。登録メンバーから会費を徴収し、地方オフィスでそれを利用し、活動する。一部だけ、ヘッドオフィスにお金が送られる。地方オフィスが力を持っているしくみ。

THR：

30年前に設立された。レストラン、ホテルのスタッフに対し、ホスピタリティのトレーニングを提供。自然保護の研修も一部実施。研修は、参加者から費用を徴収するが、観光省が研修を委託している場合、観光省からもお金が出ている。講師は50人いる大きなセンター。南ヨーロッパ唯一の研修センター。2，3年前には、アジア、アフリ

カからも研修員を受け入れた。研修は主にホテル、レストランのマネージャーになるための内容。外国語も学ぶ。外国語でのガイド養成も行っている。

研修は、この組織だけでなく、ANTRECも行っており、また民間ベースでも行われている。ANTRECは、ブラショフ、ブランで、地方観光を特に強調した内容の研修を行った。最近、モルダビアから10人の研修員を受け入れた。地方観光を学ぶことが目的で。これらはルーマニア政府のお金。

July 10 Wed. 11:00 Meeting with Mr. Masanobu YOSHII, First Secretary, Embassy of Japan

調査団の報告について：

政府、民間の活動はばらばら。シギショアラはすでに街全体で売り出している。

ここでの観光産業は、目端の利く個人が担っている印象がある。地域としての発展、という考えはない。

共産主義時代は、チケットが配布されて、黒海近辺の保養所を利用するという状況。地域にお金は落ちなかった。

まだ中央政府が予算を持っているので、中央政府の力が強い。

入手したデータは、国別の観光客数、GNP中の観光産業が占める割合などについて。

ルーマニア、課長クラスは女性が多い。男性より女性の方がてきぱき働く。ただし、局長、次官、大臣クラスは、まだまだ男性が多い。教育関係者、医者は女性が多い。

イスラエルとの関係も深い。ルーマニアにいたユダヤ人がイスラエルに移住したり、ルーマニア人がイスラエルに出稼ぎに行ったりしている。共産主義崩壊後、イスラエルから投資がある。出稼ぎに行ったルーマニア人からの仕送りも、ルーマニアに入ってきている。外国からの送金のうち、イスラエルからが最多。

貿易赤字がずっと続いているので、観光収入、出稼ぎで、それを穴埋めしたいと政府は考えている。観光大臣はJICAのOB。

政府の上層部は汚職、腐敗が残っていて、利権構造が出来上がっている。NGO、基金には必ずといっていいほど、バックに政治家がいる。それらの組織を利用して、政治家にお金が流れるようになっている。

この国の観光政策は、結局誰をターゲットにするのかが、大きなテーマ。一般人の月給が500万レイくらいで、ホテルが1泊50万レイくらい。2重価格もまだ残っている。いい　ホテルは、外国人しか泊まらないので、2重価格はない。商売をやっている上の

方の人は、ターゲットを外国人としている。

ANAホテルは、パン屋のチェーン店から始まり、観光業に入ってきたもの。ホテルの民営化、旧要人の別荘の入札は観光省が行っているが、それに参加して、ホテルを入手している。

ボイアナブラショフは、ブラショフの森の意味。かつては市民の憩いの場。市民は今も訪れるが、芝生でくつろいでいるだけで宿泊はしない。レストランも高い。宿泊するのは、外国人だけ。

テレビによると、休暇で1家庭が支出する1日の平均金額は、50万レイ。

研修員の中には、1人くらい、中央政府出身の地方代表が入っていた方が、地方の開発担当者の仕事がしやすいかもしれない。とにかく予算は中央から来るので。

結局、ルーマニアには統一的な観光政策がない。

ルーマニアの土産物の水準は、他国に比べて、技術的に低く、また特徴があまりない。理由は、今まで、いいものを目にする機会がなかったからだ。今後、いいものに触れる機会が増えれば、少しずつ変わっていく。

観光産業を育てる全体のノウハウ、取りまとめる力がない。

帰国研修員同窓会の活動は、ようやく実際に動きそうだ。観光分野の研修員は、特に地域間のネットワークを作りたいであろうから、活用してもらいたい。

V　現地報告書

SUMMARY REPORT

BY

Study team for Development Planning

with Participation of Community

Case Study : Eco-Friendly Tourism Promotion of Kiyosato Highland

Bulgaria

INDEX

1. BACKGROUND
2. OBJECTIVE
3. PERIOD
4. MEMBERS
5. SCHEDULE OF THE STUDY TEAM
6. INSTITUTIONS WHERE THE STUDY TEAM VISITED
7. SUMMARY REPORT

1. Background

Hachioji International Center, JICA will provide a new training course named Development Planning with Participation of Community -- Case Study : Eco-Friendly Tourism Promotion of Kiyosato Highland -- with cooperation of Kiyosato Educational Experiment Project, Inc for Bulgaria and Romania. The purpose of the training course is to give participants some hints to make development plan through introducing experience of Kiyosato Educational Experiment Project, Inc and participatory management methodology, Project Cycle Management (PCM) of JICA.

The study team was dispatched to know the real situation in respective country and build better curriculum.

2. Objective

The objectives of this team were as follows:

(1) To collect information in the field of tourism and community development

(2) To know the real situation and problems in the field of tourism and community development

3. Period

From June 30 - July 5, 2002

4. Members

（1） Mr. Masao WATANABE/ Director for the Study Team
Managing Director, Hachioji International Centre, JICA

（2） Mr. Takao OKEMOTO/ Technical Conductor for the Study Team
Managing Director, International Relations Department,
Kiyosato Educational Experiment Project, Inc.

（3） Ms. Hiromi SAWADA/ Training Planning for the Study Team
Officer, Programme Division, Hachioji International Centre, JICA

5. Schedule

June 30 Sun.	14:30	Meeting with Mr. SAKUMA, JICA Expert
July 1 Mon.	09:30	Meeting with JICA/JOCV Bulgaria Office
	11:30	Meeting with Mr. TAKIGAWA, First Secretary of Technical cooperation, Japanese Embassy

	14:00	Meeting and discussion with Mr. Radoslav STANOLOV, Senior Expert, EU Programmes and Japan's Technical Assistance Div., Ministry of Economy and Mr. Ivan GADELEV, Senior Expert, EU Programmes and Japan's Technical Assistance Div., Ministry of Economy
	15:15	Meeting and discussion with Mr. Ivo MARINOV, Director, National Tourism Policy Directorate, Ministry of Economy and Mr. SAKUMA, JICA Expert
	16:30	Meeting with Ms. Petya ATSINOVA, President of the Board of Directors, Bulgarian Association of Regional Development Agencies and Business Centres, Mr. Ivo TZAREV, Director, Smorian Regional Development Agency and Mr. Kiril DRAMOV, Training Manager, Bulgarian Association of Regional Development SAgencies and Business Centres
	17:30	Meeting with Mr. Lubomir POPIORDANOV, Chairman, Bulgarian Association for Alternative Tourism and Ms Lili GENOVA, Office Manager, Zig Zag Holidays Ltd.
July 2 Tue.	14:00	Meeting with Mr. Stefan Dervishev, Mayor of Kazanluk city, and his staff
	16:30	Observation
July 3 Wed.	10:30	Meeting with Ms. Silvia HINKOVA, Executive Director, The Regional Tourist Association Strara Planina
	13:30	Meeting with Ms. Temenuga KOLAROVA, Staff of the touristic bureau in Tryavna on Angel Kanchev Street

6. Institutions where the study team visited

1) EU Programmes and Japan's Technical Assistance Div., Ministry of Economy
2) National Tourism Policy Directorate, Ministry of Economy
3) Bulgarian Association of Regional Development Agencies and Business Centres
4) Bulgarian Association for Alternative Tourism
5) Government of Kazanluc city
6) The Regional Tourist Association Strara Planina

Meeting with JICA Bulgaria Office
Courtesy Call to Embassy of Japan

7. Summary of finding

(1) Finding and recommendation of sight survey

The study team visited Kazanluk city. The team had meeting with Major of Kazanluk city and his staff. After that, the team observed their some tourism resources. Rose is still large impact on their tourism industry, but it is not enough for tourists to visit there all the year. We can recommend few things as follows:

a. to make up convenient mobility; cycling road, rental bicycle
b. to arrange volunteers of the people in Kazanluk city as tour guides about their historical monuments
c. to open special restaurants by the farmers in the farming villages
d. to add English sign in the city for foreigners to travel around
e. to make a pamphlet and a map with nice pictures

etc.

On the other hand, the team noticed by meeting with Strara Planina that some municipalities have already started new tourism development. They are promoting it actively. However, we could not identify they included participation of community.

(2) Selection of candidates for the training course

The team could mention besides the qualification of candidates in the course information, as follows;

a. to be working in municipal level to engage at community development planning
b. to be from municipalities with similar level of development
c. at least one candidate from Kazanluk city for connection with Fukuyama city, Japan as its brother city

SUMMARY REPORT

BY

Study team for Development Planning

with Participation of Community

Case Study : Eco-Friendly Tourism Promotion of Kiyosato Highland

Romania

INDEX

1. BACKGROUND
2. OBJECTIVE
3. PERIOD
4. MEMBERS
5. SCHEDULE OF THE STUDY TEAM
6. SUMMARY REPORT

1. Background

Hachioji International Center, JICA will provide a new training course named Development Planning with Participation of Community -- Case Study : Eco-Friendly Tourism Promotion of Kiyosato Highland -- with cooperation of Kiyosato Educational Experiment Project, Inc for Bulgaria and Romania. The purpose of the training course is to give participants some hints to make development plan through introducing experience of Kiyosato Educational Experiment Project, Inc and participatory management methodology, Project Cycle Management (PCM) of JICA.

The study team was dispatched to know the real situation in respective country and build better curriculum.

2. Objective

The objectives of this team were as follows:

(1) To collect information in the field of tourism and community development

(2) To know the real situation and problems in the field of tourism and community development

3. Period

From July 5 - July 10, 2002

4. Members

（1） Mr. Masao WATANABE/ Director for the Study Team
Managing Director, Hachioji International Centre, JICA

（2） Mr. Takao OKEMOTO/ Technical Conductor for the Study Team
Managing Director, International Relations Department,
Kiyosato Educational Experiment Project, Inc.

（3） Ms. Hiromi SAWADA/ Training Planning for the Study Team
Officer, Programme Division, Hachioji International Centre, JICA

5. Schedule

July 5 Fri. 10:00 Meeting with Mr. Keiji MIURA, Counsellor, Mr. Masanobu YOSHII, First Secretary, Mr. Ryohei TOBIBAYASHI, Attache, Embassy of Japan

12:00 Meeting with Mr. Stoian PETRE, Counselllo, Mr. Ovdiu DIANU, First Secretary, Asia- Pacific Division, Ministry of Foreign Affairs

14:00 Meeting with Ms. Oana BUHAN, Director, Ms. Carmen MORARU, Deputy

General Director, Ms. Rodica PENCEA, Deputy Director, Division for European Integration and International Relations, Ministry of Tourism, and Mr. Mircea VLADU, Vice President, National Association for Travel Agencies

16:00 Meeting with JICA/JOCV Romania Office

July 6 Sat. 12:00 Sight Survey in Sinaia and Azuga village

July 7 Sun. 10:00 Sight Survey in Busteni, Peak Omo, and Brasov

July 8 Mon. 10:00 Meeting with Ms. Daniela MOASA, Inspector, International Affairs Devision, Municipality of Brasov, Ms. Lobb Diana and Ms. Psanu Danieza, Territorial Representative, Brasov county, Ministry of Tourism, Mr. Lica Marian, Head of Tourism Department, County Council of Brasov, Ms. Sima Andreea, Officer, Tourism Department, County Council of Brasov

12:00 Sight Survey in Bran village

6. Summary of finding

(1) Finding and recommendation of sight survey

The study team visited Sinaia, Azuga village, Busteni, Peak Omo, Brasov, and Bran village. The team found that there were many kinds of tourism resources and good facilities with well-matured management. Nevertheless the team can point out several things as follows to make them more attractive.

Sinaia

a. to make attractive souvenir using local characters such as bear and legendary dragon
b. to arrange show windows attractively and effectively
c. to refine old houses between Sinaia and Azuga village preserving historical appearance
d. to arrange carriages as transportation between Sinaia and Azuga run by the community people

Brasov

e. to show whole the old towns and streets as eco-museum
f. to revitalize the shopping district along the main street

Bran

g. to organize an association for villa (small hotel) owners and advertise jointly

The team confirmed through the survey that Romania had already started alternative

tourism development with her rich resources. However, we could not identify that it included participation of community within the short survey.

(2) Selection of candidates for the training course

The team could mention besides the qualification of candidates in the course information (GI), as follows;

a. to be working in municipal level or county level to engage at community development planning
b. to be from municipalities and counties with similar level of development
c. one candidate from Brasov city shall be considered for the connection with Musashino city in Japan